

年間第3 1 主日

第1朗読 申命記 6・2-6

第2朗読 ヘブライ 7・23-28

福音朗読 マルコ 12・28b-34

2021.10.31 カトリック高円寺教会

ジョン・ジュン神父（クラレチアン宣教会）

愛されると愛する

おはようございます、主の平和。

まず皆さんにお願いすることがあります。

願い事は、お互いに笑顔を見せて頂けませんか？ 自分の隣の人に。もちろんマスクをしてでは少し難しいですが、笑顔を感じますね。ありがとうございます。

今の世の中、とても複雑です。ストレスばかり、自分の未来に対して自信がない、何も興味がない、職業病がある。家族の中でも、冷たくあしらわれたり、シカトされたり（無視されたり）、無関心や冷たい態度で接されたりと、たくさんの方が苦しんでいます。特に多くの子どもたちが孤独感に覆われています。毎日のニュースで、自殺や高齢者虐待と児童虐待をよく耳にします。ギャンブル中毒などもあります。本当はみんなが被害者なんです。

何故このような問題が起るのかを考えたことがありますか？

とても難しい問題ですね。

実は原因はただ一つだけです。

“愛がない”からです。愛が“行方不明”になったのです。愛を感じない人生は、人生の目標もなくしてしまいます。

第一朗読、旧約聖書の中で、イスラエル人は神様とコミュニケーションをするとき“愛”という言葉はあまり使いません。なぜならイスラエル人にとって“愛”という言葉は色っぽい感情に感じてしまうからです。

イスラエル人は神様に対して典礼で関係を維持していると勘違いしています。ですから異邦人のように、神さまに奉納（羊、雄牛、畑の収穫など）を捧げることによって神様から祝福をもらっているとイスラエル人が思っていました。

“雄牛、小羊、雄山羊の血を私は喜ばない”（イザヤ1：11）
したがって、預言者は彼らを目覚めさせるよう、彼らを批判し続けました。

イスラエル人にとっていつも神様に伝える言葉は服従と畏敬、固くルールを守ることでした。後で、彼らは神様の愛に愛をもって応えなければならないことに気づきます。神様の要求は、悪い行動をやめ、善を行うことです。愛こそが神様の要求です。

愛をどう理解していますか？

答えは人によってたくさんあると思います。

愛は、心プラス魂で、力になります。

なぜなら第二朗読でイエス様は人間を救うために犠牲となりました。

司祭の奉献は短いですが、イエス様の奉献は永遠の命でした。

旧約の中でラビの掟は、全部まとめたら613記事、消極的な掟は365記事です。これはダメです、あれはダメです。ダメダメね。もしも家族の中で両親からいつもダメと言われたら、その子どもはストレスになるかもしれない。

そして、248の記事は積極的な掟です。これはオッケーです。

イスラエルの人々にとって一番大切な掟は安息日を守ることと神様を崇拝することでした。

掟についてイエス様の教えることは一つだけです。それは愛です。

彼の教える愛は少しだけ違います。

気になりますか？

第一朗読の申命記は、心と魂と力です。

福音は心と精神と力と、そして思いです。

したがって、愛には理性が必要です。盲目的な愛ではありません。

旧約時代の人は守るだけでした。新約では守るだけが正しいのか間違いかを考える必要があります。

神様の愛はもらうものではありません。祈り、歌う、時間、奉納、健康などを捧げると愛をもらえると考えている人が多くいます。

実は、神様の愛は無条件です。特に弱い人たちを助けます。

人々の命に糧を与えることで、神様は光になります。

カトリック信者の中でも教会で厳しい顔を見せ、家族の中でも笑顔を見せない人が多くいます。

本当の愛は、見え、感じ、触れ、伝えることができます。ですから、今日のお話の一番最初に社会の様々な問題を挙げてみました。

最後に、皆さんにお勧めします。

わたしたちは神様から無条件で愛されているその愛を深く感じ、感謝しましょう。そして、わたしたちもわたしたちの隣人を愛しましょう。愛は自分の家族から始まります。